

# クラシックの 午後

～気軽にオーケストラ～

2006年 9月3日(日)

開場 13:00 開演 14:00

宇部市渡辺翁記念会館

主催 ● 宇部市民オーケストラ

後援 ● 宇部市、宇部市教育委員会、宇部文化連盟、NHK山口放送局、TYSテレビ山口、KRY山口放送、  
YAM山陽放送、エフエム山口、朝日新聞社、毎日新聞社、FMきらら、読売新聞西部本社、  
宇部日報社、宇部好楽協会、宇部音楽鑑賞協会、(財)渡辺翁記念文化協会



# プログラム

モーツァルト 作曲

歌劇「後宮からの逃走」序曲 K.V.384

モーツァルト 作曲

フルートとハープの為の協奏曲 K.V.299

フルート：石井 陽子     ハープ：御手洗えま

休 憩

ボロディン 作曲

交響詩「中央アジアの草原にて」

ムソルグスキー作曲・ラヴェル編曲

組曲「展覧会の絵」

プロムナード

第1曲：こびと

プロムナード

第2曲：古城

プロムナード

第3曲：チュイルリーの庭

第4曲：ビドロ（ビドウォ）

プロムナード

第5曲：卵の殻をつけたひなどりの踊り

第6曲：サミュエル・ゴールドベルグとシュミイレ

第7曲：リモージュの市場

第8曲：カタコンブ ～死者の言葉で死者とともに

第9曲：バーバ・ヤーガの小屋

第10曲：キエフの大門

## 指揮



茂木 大輔

DAISUKE MOGI

東京都出身。国立音楽大学在学中から新星日本交響楽団のオーボエ奏者として活躍。1981年にミュンヘン国立音楽大学マイスターコースに留学し、ギュンター・バッシン氏に師事。87年にはシュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団に第1オーボエ奏者として入団、巨匠ヘルムート・リリンク率いるパッハ・コレギウムでは録音、演奏旅行、指揮セミナーなどに参加した。1990年に帰国し、91年からはNHK交響楽団の首席オーボエ奏者を務めている。またソリストとしての活動も活発で、これまでにNHK交響楽団、ウィーン・フィル室内合奏団、トウキョウ・モーツァルト・ブレーヤーズ、いずみシンフォニエッタ、宮崎音楽祭管弦楽団などと共演したほか、ジャズピアニスト山下洋輔など各ジャンルを代表するアーティストとの枠にとらわれない斬新な活動が常に注目を集めている。CDもこれまでに多数リリースしており、いずれも高い評価を得ている。

98年にスタートした三鷹市芸術文化センター「オーケストラ人間的楽器学」シリーズを皮切りに、企画・指揮・お話しの手をみずから行うスタイルのコンサートでも全国的に活躍。これまでに東京交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪シンフォニー交響楽団、九州交響楽団、東京混声合唱団などを指揮している。2001年、東京・晴海に開館した第一生命ホールのオープニング・コンサートを企画・指揮。04年1月東京オペラシティにおいて、筒井康隆・山下洋輔が共作共演したジャズ・オペレッタ「フリン伝習録」の初演を指揮。また宗教音楽の分野では、02年にJ.S.パッハ「マイア受難曲」、05年には「口短調ミサ曲」を指揮したほか、解説演奏会なども多く行っておりいずれも大きな成功を収めている。

また執筆者としても知られ、その独自の視点と切り口が幅広い層に人気を博している。これまでに「オーケストラ楽器別人間学」（新潮文庫）、「オーケストラは素敵だ」（音楽之友社）、「こうしろ！未来のクラシック」（ヤマハ・ミュージック・メディア）など多数の著書がある。

## フルート

東京生まれ1994年東京音楽大学付属高校入学。1995年全日本学生音楽コンクールで奨励賞受賞。2001年東京芸術大学を優秀な成績で卒業。在学中から演奏活動を開始し、東京をはじめ京都、兵庫、山口、福岡県下で数々のコンサートを行なう。2003年9月すみだトリフォニーホールにて初リサイタルを開き、センセーショナルにデビューする。2004年3月と6月、F.グルダ、B.スコダと共にウィーンの三羽がらすと言われた20世紀を代表する巨匠、イェルク・デームス氏とジョイントリサイタルを開催、大好評を得る。2005年9月すみだトリフォニーにて2回目のリサイタル開催。清澄な音色が生み出す天衣無縫な音楽はフルート界の歌姫として期待されている。細川順三、佐久間由美子各氏に師事。



石井 陽子

YOKO ISHII

## ハープ



御手洗 えま

EMA MITARAI

山口に生まれる。ヴァイオリニストの母のもと3歳よりヴァイオリンとピアノを、12歳よりハープを始め、荒木真子、ヨセフ・モルナルの各師に師事。桐朋学園大学音楽学部、同大学研究科卒業後、ロータリー財団より奨学金を得て英国ロイヤル・ノーザン・カレッジ・オブ・ミュージック（RNCM）マンチェスターへ留学、フランク・スターンフェルトに師事。2000年、RNCMにてディプロマ取得後ロンドンへ移住。ロンドン・シンフォニー・オーケストラ（LSO）のハーピスト、カレン・ヴォーンに師事しつつ、英国各地でソロ、アンサンブルの演奏を行う他、後進の指導にもあたる。2003年にはソリストとしていくつかのオーケストラと共演、好評を得る。2005年9月よりバンコクのThamnakh Prathom Harp Centerよりハーピスト兼ハープ講師として招かれ、後進の指導に当たると共にコンサートなどで活躍中。日本では帰国の度、オーケストラとの共演や母と共にヴァイオリンとハープのコンサートを意欲的にこなしている。

# 曲 目 紹 介

## モーツァルト：歌劇「後宮からの逃走」序曲

今年（2021年）はモーツァルトの生誕250年、1756年にオーストリアのザルツブルグで生まれ、彼が25歳で首都ウィーンに出てきたばかりの時に作曲したのが歌劇「後宮からの逃走」です。物語を紹介しますと、スペインの青年貴族ベルモンテは、恋人のコンスタンツェが海賊に襲われてトルコの太守セリム・パシャの宮殿に売られてしまったことを聞き救出に向かいますが、もう少しというところで見つかり捕まってしまう。これで万事休すと覚悟しましたが、意外なことに太守セリム・パシャは寛大な処置で彼らを放免して故国に送り返すことを決め、トルコ兵たちが太守の徳と栄光を讃えて終わる・・・というものです。

序曲は急、緩、急の3部形式で、速い部分ではトライアングルや大太鼓が活躍しトルコ風のエキゾチックな雰囲気を感じさせているのですが、この歌劇作曲の背景には当時のヨーロッパでのトルコブームの高まりがあったのです。そのためズン、ズン、ズンという2拍子のビートを強調したトルコ風音楽を、モーツァルトはピアノソナタ「トルコ行進曲付き」や、バイオリン協奏曲第5番にも使っています。ところでこの歌劇の初演直後にモーツァルトが結婚、その相手の女性は歌劇のヒロインと同じ「コンスタンツェ」という名前でした。これは全くの偶然らしいのですが、愛する女性との結婚を目前に作曲したこの歌劇に、その頃のモーツァルトの高揚した気分が反映されていることは間違いないことでしょう。

## モーツァルト：フルートとハープの為の協奏曲

1778年、22歳のモーツァルトは母親とともにパリに到着した。宮廷音楽家としての地位を得るための旅である。推薦状を持って貴族たちの間を訪問する中で、かつてのロンドン大使ド・ギーヌ公爵と知り合いになる。ド・ギーヌ公爵は熱心なアマチュア音楽家でフルートの名手、そしてその娘もモーツァルトの作曲の弟子でハープ奏者であり、モーツァルトはこの親子のためにこのフルートとハープという珍しい組み合わせの協奏曲を書くことになる。お祝いの音楽として書かれたため典雅で生き生きとした表情を持ち、当時パリで流行していた2つの楽器を見事にオーケストラの響きの中に受け込ませフランス風サロン音楽に仕上げた優麗華美な曲である。

## 第1楽章 アレグロ

フルートとハーブが織りなすサウンドが非常に華やかなソナタ形式。

## 第2楽章 アンダンティーノ

弦楽器だけに抑えた伴奏となりフルートとハーブのあでやかな音色がひとときわ艶めく。

## 第3楽章 アレグロ

リズムカルで華麗なロンド形式。

モーツァルトはフルートやハーブを特別に愛していたわけではないと言われ、この曲に関しても少しも良い思い出をもっていないようにみえると言われている…が、そんな事はこれっぽっちも感じさせないどこまでも華やかで美しい音楽に「モーツァルトはやっぱり天才だ！」と練習中おもわず口にした私たちデシタ。

## ポロディン：交響詩「中央アジアの草原にて」

…一望果てしない中央アジアの草原からのどかなロシアの歌が聞こえてくる。はるか彼方から馬やらくだの足踏の音に混じって東洋の調べが響き渡る。そしてこの地方の隊商がロシア兵に護衛されながら平和な長い旅を続ける。征服者と征服されたものたちの歌…ロシアの歌と東洋の調べが溶け合ってハーモニーを作る。そのこだまは次第に草原の空へと消えていく。

ロシアの作曲家であるアレクサンドル・ボルフィリエヴィチ・ポロディン（1833～1887）が作曲した交響詩「中央アジアの草原にて」の楽譜にはこう書かれています。この曲を聴いてみればこの情景を容易に思い浮かべることができるでしょう。

まず現れるのが、クラリネット、ホルンによって奏てられるロシア風の旋律です。そして隊商の一群の足音を示す弦のピツィカートにのって、イングリッシュホルン（コールアンブレ）が東洋的な旋律を吹きます。ロシア風の旋律と東洋の旋律が転調しながらそれぞれ繰り返された後、ロシア風の旋律と東洋的旋律が溶け合う場面となり、2つの旋律が楽器を替えて、対位的にそして副旋律のように演奏されます。そして終結部は、ロシア風の旋律が木管楽器によって受け継がれ、静かにこだまするようにフルートのソロで曲を閉じます。

雄大な中央アジアの草原に溶け合いながら響き渡るロシアと東洋の歌…まるで絵のようなこの美しい曲をお楽しみください。

## ムソルグスキー作曲、ラヴェル編曲：組曲「展覧会の絵」

モデスト・ペトロヴィッチ・ムソルグスキーはロシア国民学派の「5人組」の一人として良く知られているが、実のところ音楽は独学で作曲の技術が稚拙なところがあり、当時の楽壇からきちんと評価されなかったようである。仲間であるはずの「5人組」さえも、リムスキー＝コルサコフを除いて彼の音楽の真価を認めていたとは言い難い。よって彼は音楽界では孤立しており、音楽と無関係な親友ガルトマン（画家、ドイツ名ハルトマン）は話がしやすい友人であった。そしてそのガルトマンが動脈瘤の破裂のより急死したとき、ムソルグスキーの落胆ぶりは大きかったという。そうした経緯があったからこそガルトマンの遺作展を見てそこから曲想を得たのだろう、「展覧会の絵」は1874年にピアノ組曲として作曲された。しかし、この「展覧会の絵」は演奏も出版も無いままであった。そして1881年3月28日、ムソルグスキーがアルコール中毒と生活苦から衰弱してこの世を去る。ムソルグスキーの死後、幸いにもリムスキー＝コルサコフが彼の遺稿を整理してくれた。そして展覧会の絵のピアノ譜が1886年に出版され、ついに日の目を浴びることができた。但しリムスキー＝コルサコフの改訂が目立つため、現在は「リムスキー＝コルサコフ版」として原曲とは違う扱いとなっている。「リムスキー＝コルサコフ版」もあまり演奏されることはなかったが、1922年、ボストン響の大指揮者クーセヴィツキーがラヴェルに編曲を依頼、ラヴェルは早速リムスキー＝コルサコフ版を元に実に見事な編曲をした。とりわけファンファーレのようにトランペットで始まるプロムナードに象徴されるように華やかな色彩を与えることに成功した。初演は1922年10月19日、パリ・オペラ座で。クーセヴィツキー指揮・ボストン響演奏は1924年11月7日。録音は1930年。大変な人気のとなったが、クーセヴィツキーは5年間の演奏独占権を確保したため、しばらく他のオケではラヴェル編を演奏できなかった。また、解禁後もラヴェルへの著作権料が高額であった。このためカイエ版、ストコフスキー版、ゲール版、ゴルチャコフ版など、さまざまな管弦楽版が生まれることにもつながった。そしてこの管弦楽曲が広く演奏されるようになって原点回帰の機運も高まり1958年にピアノ原曲がようやく日の目を見ることが出来たのである（リヒテルのソフィアライブ）。

「展覧会の絵」は10枚のロシア、フランス、ローマ、ポーランドなどさまざまな国の風物画にムソルグスキー自身の歩く姿を表現しているとされるプロムナードという短い間奏曲が5回繰り返して挿入されているのが特徴である。

# 宇部市民オーケストラ

## 役員

団長：佐藤育男 副団長：栗林宏明、末永俊彦、濱野妙子

名誉指揮者：十川真弓

コンサートミストレス&コンサートマスター：安永 恵、笹本真理子、内海俊彦

管セクションリーダー：向山尚志

インスペクター：上野明弘

マネージャー：向山尚志

ステージマネージャー：栗林宏明 楽器：栗野直樹

楽譜：佐貫政彰、大石正興、山本麻衣子

会計：末永俊彦、市本久子、濱村典子、原田圭子、久井のり子

厚生：加藤由香理 広報：上野 尚

## 団員 (○印コンサートマスター ○印パートリーダー)

- ヴァイオリン ○安永 恵 ○笹本真理子 ○内海俊彦 ○清水治子 安楽由利子 在田和子  
池田英子 池田芳江 上野 尚 内田久士 香川早苗 坂本直子 佐貫政彰  
清水千晶 鋤崎有里 縄田美言 中村素子 永本晴美 久井のり子 松井顕子  
吉永 準 山本三郎 十川真弓 大西貴里子(客演) 藤村由梨(客演)  
山口尚子(客演)
- ヴィオラ ○濱野妙子 市本久子 上野明弘 大石正興 小田浩代 大槻直美 橋本紗也佳  
森尾 崇 山田容子 吉本宗明 石森桂子(客演) 中川康仁(客演)
- チェロ ○栗林宏明 秋山友紀 在田康子 石井秀太郎 今井 健 加藤由香里  
児玉佑司 佐伯真理子 澤 明彦 濱村和幸 原田圭子 原田典子 藤野 緑
- コントラバス ○藤野 隆 兼重美鈴 杉村浩信 弘中章司 堀亜由美 八木政治
- フルート ○小賀真理子 井伊秀子 鈴木まさ子 高井寿永 宮崎真由美
- オーボエ ○宗國敦子 石村 愛 岡崎 兆 藤井浩子(客演)
- クラリネット ○大村真奈美 加藤 紘 向山尚志 磯谷妙子(団友)
- ファゴット ○小林太郎 伊藤浩太 義永由奈 福田敦宏 宮下英晃 村上曜子
- トランペット ○藤井淳子 種田裕彦 藤井晶宏 東川 剛(客演)
- ホルン ○徳永 輝 馬屋原由充 河津弥恵 斎藤美由紀 澤本貴裕 濱村典子  
福田 誠 柳井秀雄
- トロンボーン ○山本 忍 大村康一郎 山本麻衣子
- チューバ 奥中淳夫(客演)
- アルトサクソ 安部浩信(客演)
- ユーフォニウム 下濃正浩(客演)
- パーカッション ○高杉美佳子 栗野直樹 山元紀世子 川手艶子(客演) 熊谷貴世(客演)
- チェレスタ 杉尾陽子(客演)